

ナチュラルタイムズ

神戸市中央区布引町3丁目1-7
神戸クリニックビル2階
JR三宮駅より北へ、加納町交差点南
<http://www.hattori-naika.com>
(078)222-5566



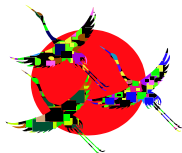
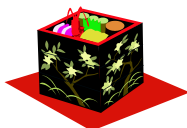
わたしたちの大切な医療制度

フラワーロード服部内科 2007年12月号 Vol.22

月日が驚異的なはやさで過ぎるのはトシのせいかと思っていましたが、20歳代30歳代の人に尋ねてもすごく速いと返事で、よかったとホッと安心したり、世の中忙しすぎると憂いたりと思いは尽きません。さて医療機関では保険請求という作業でひと月ひと月を実感しています。医療費の1~3割は窓口でご負担いただき、残りの7~9割を社会保険支払基金や国民保険連合に請求します。その月に来院された患者さんごとにレセプトという請求書を作って提出しています。このため月初めの数日間で前月分のカルテをすべて見直します。当院ではご承知のように電子カルテを採用していますが電子化システムの得意技に記録保管があります。わかりやすいえば日ごろ診察室と一緒に眺めているカルテがたとえば自宅とかでも見られるということです。休日に集中してチェックするのですがのんびり陽ざしを浴びながらじっくり読むカルテからは慌ただし中とはまた異なる印象を受けることに最近気づきました。診察中に「そんなことまでカルテに書くのですか」と言われることがあります。旅行の話など診療とは一見関係ないエピソードも盛り込まれたカルテからはその方が生き生きとした表情をもって身近に感じられます。そして常にリラックスモードで診療ができれば、さらに幸せを感じながらいい仕事ができるのだらうなあとと思うのです。

さて、この医療制度ですが院内のポスターなどでお知らせしているように、いま崖っぷちの危機的状況になっています。いわゆる医療崩壊が始まっているのです。わたしは大学卒業後2004年まで20年間公立病院の勤務医でした。勤務医時代は時間的・精神的に病院に拘束され確かにしんどい生活でしたが、最新の治療を行うことができましたし患者さんとの交流の中に大きなやりがいを見出していました。しかし小泉首相が骨太の構造改革を言い出した頃、あれっ流れが変わったと感じました。初めて仕事に不満を感じたのもこのころです。内科医としてすでにキャリアを積んでいて自分のやり方に確信が持てたこと、折にふれご紹介している統合医療を実践しようと思ったことから独立の道を選びました。その直後のことです。大学医局制度改革に端を発して医療システムが崩れ始めたのです。病院とくに公立総合病院の役割の大切さや有難さは開業後にますます痛感します。病院は日本の医療システムの根っこといえます。その病院の医師や看護師が疲れ果てています。しかも医療費削減で病院の存続そのものが危ういのです。加えて個人負担額はG7先進国中最高額なのに、さらにその個人負担額の引き上げ(後期高齢者は年金からの天引き)が予定されています。詳細は現役勤務医の本田宏氏の新刊書「誰が日本の医療を殺すのか 医療崩壊の知られざる真実」をご参考になさってください。私たち医師は人々の健康を守るという使命感や職業意識は備えていましたが、医療の狭い世界に生きていて世間のことにはうとくて専門バカだと自嘲気味に言っていました。その医師たちがいま医療の現場でひしひしと感じているのは、社会保障よりも公共事業や産業が大事という市場原理優先の国家に対する不安と危惧であり、国民を大切にしない日本という国の将来に対するいらだたしさなのです。いのちにかかわるこの大事な問題について皆さんはどう思われますか。

院長 服部かおる



インフルエンザについて



インフルエンザは11月上旬頃から散発的に発生し、1月下旬~2月上旬に流行します。冬場の乾燥した空気は、気道粘膜の抵抗力を弱めます。インフルエンザウイルスにとって絶好の環境が整うために流行するのです。体力の弱い乳幼児や小児、または高齢の方などに脳炎や肺炎などの重い合併症を起こすこともあるため、十分な注意が必要となります。

臨床症状: 普通の風邪はのどや鼻に症状がでますが、インフルエンザウイルスに感染すると、約1~3日後に突然38~40度という高熱を認めるのが特徴です。同時に、寒気・頭痛・背中や四肢の筋肉痛・関節痛・全身のだるさ等の症状が現れます。これに続いて、鼻水・のどの痛み・胸の痛み等の症状も現れます。発熱は通常3~7日間程度続き、この期間は人に伝染します。

検査・診断法: 患者さんの喉の奥を拭った液を採取して、数十分で検査結果が出る迅速診断検査を行っています。

予防法: 予防方法は、1) 予防接種 2) 流行期には人ごみは避ける 3) 外出後はうがい・手洗い 4) 室内の湿度を50-60%に保つことです。インフルエンザウイルスの活動を押さえる為にも加湿器などを使用して室内の湿度を保ちましょう。また、定期的に室内の換気も行いましょう。

体力が低下していると感染しやすくなります。バランスのとれた食事をとり、十分な睡眠をとるように心がけましょう。

予防接種は、効果を発揮するまでに約2週間かかりますので、流行前に接種しましょう。

治療法: インフルエンザウイルスの増殖を阻害する抗インフルエンザウイルス薬を使います。吸入薬と経口薬、小児用のドライシロップが使用できます。健康保険が適応されます。

編集後記

10月より勤務しています。アロマセラピーの世界に魅了され、現在も勉強中です。心と身体、そして地球にも優しいアロマセラピーを目指しています。初めての方にも興味を持ってもらえるよう頑張りますので、よろしくお願いたします。(看護師; 氏平)

